

日 時：平成 28 年 2 月 9 日（火）18 時 30 分 ～19 時 50 分

場 所：新屋多目的集会所

対象地区：新屋

参加人数：21 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○イルミネーションプロムナード事業について</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <p>来年度もイルミネーションを続けるのであれば、デザインを工夫した方が良いと思う。建物を縁取るだけでなく、立体的なものやアーチ、トンネルなどもあれば良いと思う。また、時期に合わせたイベントも増やした方が良いのではないかと思う。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今年初めて地方創生のお金を使つての事業だった。事業者を公募したが、装飾が単純であるという意見があった。</li><li>・イルミネーションは来年もやりたいと思っている。今年度かかった予算は 1,600 万円ほどだが、今年使った 10 万 8,000 個の LED は買っているの、来年度も活用し、工夫して取り付けたいと思う。</li><li>・市ではふるさと納税のお金も使いながら、イルミネーションプロムナード事業を活用した市民提案型に対する補助を考えている。</li><li>・当初は市制施行 10 周年に合わせて 1 月 14 日までを予定していたが、商工会からの要請もあり、はしご酒まつりの期間まで延長した経緯がある。</li></ul>
<p>○後継者育成について</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <p>あと 10 年経てば、かなりりんご農家が減ると思う。若いりんご農家を育てるのにいくら予算をとっているのか。</p> <p>（市の回答）</p> <p>・トータルの予算は簡単に出てこないが、産業別にはりんごや米、桃などの栽培への補助のほか、商工会青年部関係など後継者育成の予算をかなりとっているつもりである。金額のトータルに関する資料は持ち合わせていないので、知りたければ後程調べて連絡する。</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <p>細かい額は別にいいのだが、りんごは一番の宝であると思うので、それがなくなれば市の財政としても厳しいと思う。</p>

(市の回答)

- ・行政の立場でも同じである。特に平川市はりんごの品評会でも上位を独占しており、品質は県でも一番である。それを継続していく若い人たちの育成は重要であると思うので、りんご協会に基幹青年で行く人の支援や認定農業者への支援をしていきたい。

(市民からの要望・質問)

りんごが米のように儲けが出ないということになると、市として困るかと思うので、りんごが高値で売れるようにしてほしい。

(市の回答)

- ・りんごに関しては収量が多く、安くなるかと思ったが、高値で推移している。

○引座川の柳の木について

(市民からの要望・質問)

引座川について、柳の木が2、3カ所あるのだが、伐採してほしい。

(市の回答)

- ・管轄が県であるので、場所を確認して、県にお願いする。

(市民からの要望・質問)

土木課にも相談したが、一向に動きが無い。

(市の回答)

- ・連絡をとり、すぐに切らなければならないか確認したいと思う。

(市民からの要望・質問)

水害の時は20メートルぐらいの水路の管が立木に引っ掛かったので、上げてもらった。

(市の回答)

- ・引座川もそうだが、浅井川もアカシヤの木が折れて、りんごの褐斑病の原因になることで切ってもらったことがある。そういったことがあるといけないので、確認したい。

(市民からの発言)

頼んだが切ってもらえなかったので、中山間で切ってもらったことがある。

(市の回答)

- ・そうなる、場合によっては中山間のお金を活用して切ってもらうことがあるかもしれ

ない。

(市民からの要望・質問)

農協に頼んだが切るに切れないということで、中山間の方で切ってもらって大変助かった。黄色いりんごは炭素病に弱く、クルミやアカシヤの木の影響でりんごがほとんどならなかったということがあります、中山間の人たちで切った。

この中山間のように、地域でできることはやる、そういう地域であってほしいと思う。

(市の回答)

・高齢者だけの地域もあるので対応を考えていかなければならない。どの地域でもその傾向があるが、まだ新屋地区や尾崎地区など、山手には比較的若い人が多いので、心強く地域づくりを行っていきけるのではないかと。

○トップセールスについて

(市民からの要望・質問)

トップセールスで平川市のりんごは世界一美味しいという宣伝をもっとしてほしい。

(市の回答)

・去年も平成 27 年産のりんごを販売するために農協とともに浜松市に行ってきた。また、友好親善都市の鹿児島県南九州市と福岡市で販売を行った。今月も農協と共に松山市に行く予定である。

・国の事業を利用し、10 トントラックに積載できるねふたを作った。また、女子囃子組などで平川市の売り込みを行っている。

・津軽の桃に関しては、注目されているが生産量が少ないため、更に桃を生産する人が多くなればよいと思っている。

・トップセールスのみならず、ふるさと納税で出している農協のりんごも 1 万件くらい出ており、宣伝になっている。また、返礼品のりんごが美味しいからと購入することもあるようである。平川市としても応援して頂ける方に対し、宣伝の意味も含めてりんごを送っている。

○消防団屯所前の雪について

(市民からの要望・質問)

例年、消防団の屯所前に除雪された雪が多く寄せられ、緊急車両が出られない。もう少し寄せてもらうことはできないか。

(市の回答)

・他の町会でも同様の事があった。全ての雪を寄せることはできないかもしれないが、緊急車両が出るところであるので、あまり雪を置かないように土木課をお願いします。

(市民からの要望・質問)

ロータリーが頻繁に来るようになり、家庭の前には雪を置いていかないが、屯所の前だけには雪があつたりする。

(市の回答)

- ・去年からロータリーを幅出しのために使っており喜ばれているが、屯所前に雪を置いていく状況はよくないと思う。
- ・新屋のみならず、緊急車両の出入り口には雪を置かないようにする。しかし、雪が多く降ったときは寄せる場所が無くなってしまふので、幅出しを行うとともに、雪をうまく寄せることで対応したい。

○ねふたの補助金について

(市民からの要望・質問)

平川市のねふたは黒石や弘前と違う特徴があつて一番であるという声を聞くようになり、観客も年々増えてきていると思う。しかし、ねふたにはお金が 230 万円から 250 万円ほどかかる。即答できないかと思うが、冬のねふたを行わないのであれば、実施団体に助成を増やしてほしいと思う。ねふたをやることで地域の輪を保つことができていると思うので、検討をよろしくお願いしたい。

(市の回答)

- ・大晦日は市制施行 10 周年、それまでは東北新幹線新青森駅開業を記念して冬のねふたを行った。
- ・夏のねふたについては例年通り予算がついているが、検討したい。他の事業との兼ね合いもあるので、1 団体 10 万円をどの程度上乗せして助成できるか考えたい。

○介護費について

(市民からの要望・質問)

平川市の介護費は県内でどのような位置にあるのか。また、値上がりもしていると思うが、ただ単に値上げするのではなく、介護の人を減少させるための施策を教えてください。

(市の回答)

- ・介護を受ける人は高齢化が進む中で多くなってきているが、介護保険の財政状況は悪くない。
- ・介護度の判定は施設だけではなく、市でも施設から上がってきたものに対して再調査を行っており、認定調査員が回って判定をしている。
- ・介護保険料は 6,000 円を超えており、他と比べて安くはない。施設を作ってサービスが増えると高くなる。かといって介護施設を作らないわけにもいかないなので、その点がジ

レンマである。

- ・国民健康保険も同様だが、保険料を払っても使わない人の方が多い。使っていない人からすれば払いたくないと思うが、それが保険というものである。
- ・なるべく介護度を抑えてサービスを押さえたいというのもあるが、それも限界がある。
- ・去年の10月25日に健康宣言を行った。健康で長生きする人を増やすことを目的に、検診や運動、食生活、心の健康づくりを進めて平川市の健康寿命を延ばそうとしている。そのため、新たに検診を行ってもらえるような事業を行う予定である。
- ・健康づくりに関して、平川市は短命県といわれる青森県の平均よりも男性の平均寿命が短いので、もう少し上げていきたいと考えている。高齢者が増えても介護を受ける人が少なくなれば、保険料も下がっていくと思う。食育指導や健康推進委員などを活用して健康づくりを進めていきたい。

(市民からの要望・質問)

以前、国保を使わない人に有利な施策があったと思う。介護保険の方もそういったものがあれば良いのではないかと思う。

(市の回答)

- ・国保のものは旧平賀町時代にあったが、町村合併時の事業整理でなくなった。
- ・不測の事態に備えるための保険制度であるので、全く使わない人からすれば理不尽と思うかもしれないが、助け合いの精神が無くなれば保険制度は崩れてしまう。どうしていけばいいのか少し考えさせてほしい。

○農道の舗装について

(市民からの要望・質問)

農道を市で年1回舗装してもらいたい。

(市の回答)

- ・農道は、毎年土木課で改良の予算が決められている。国の緊急対策や経済対策があれば農道まで行う予算の余裕ができる。かつて小淵総理や麻生総理の時代にあった。しかし、限られた予算の中では人が住んでいる住宅近くの道路などがメインとなる。農道も荷傷みを防ぐために必要であると思うが、人が通るところが優先される。必要なものやっ、て、余れば農道の整備を行うことになる。
- ・場所を教えてもらえれば緊急度を担当に確認して対応する。

○固定資産税について

(市民からの要望・質問)

土地を貸しており、黒石市と平川市から課税されているのだが、そういったことはあるのか。税金の3分の1を黒石の税務署に、3分の2を平川市に払っている。

(市の回答)

- ・聞いただけでは分からないが、同じものに対して課税されるということは無い。市民税は市に払うが、一定額を超えると国からも所得税が課税される。
- ・税務課に問い合わせれば、国税の部分も市の資料を使っているので状況が分かる。しかし、話を聞くと別の税金である可能性がある。

(市民からの要望・質問)

黒石にある土地なのでそうなのだろうか。

(市の回答)

- ・黒石の土地ということは、黒石市役所からは固定資産税がきていると思われる。
- ・平川市でかかっている税金は、土地を貸した利益に対しての市民税と思われる。

○新築住宅の増加について

(市民からの要望・質問)

最近、建売が増えているが、どんな人が入っているのか教えてほしい。

(市の回答)

- ・平川市は他の地域に比べ、新しい家を建てる人が多い。3年前から子育て支援住宅の補助を行っているが、これまで120軒建てている。市内は95軒で、市外からは25軒であり、うち1軒は県外からである。
- ・来年度からは外から人を呼び込むため、民間の宅地開発の支援事業という市街化区域内における民間宅地開発の区画道路、側溝等の工事に対し、開発会社に助成するという事業を行う予定である。また、移住者子育て住宅支援事業という、県外から来た子育て世代の人が住宅を建てる場合に100万円を助成する事業も行う。これは、子育て世代でなくても県外からの人であれば80万円を助成するもので、市外から入ってくる人の額を多くし、市内から市内は少なめにしている。
- ・平川第二期の土地改良を行っているが、現状では市街化区域を増やせないため、農政局などと話をし、用途変更して緩和区域を指定することで民間が開発を進められるようにした。
- ・平川市は弘前に比べて地価も安く、子育て環境も良いので、住む人が多くなってきていると聞いている。更に教育環境を整備するなどし、平川市に人が多く住んでもらえるようにすることで、人口減少に歯止めをかけられればと思っている。
- ・子供が増えることは将来にわたって地域の活性化につながるため、これからも子育て支援の施策を続けていきたいと考えている。

○まちづくり懇談会の開催方法について

(市民からの要望・質問)

まちづくり懇談会があるということで、周りの30代、40代に声掛けをしたが、平日の6時半はご飯支度や子供の送迎などで忙しくて出席できない。地域や年代ごとに提案があると思うので、来年度もまちづくり懇談会を行うのであれば、地域の他に年代別など様々なターゲットに絞った懇談会を2、3回行えば良いのではないか。

(市の回答)

- ・各町会を回ってみると、年配の方が多いいというのは去年の反省会でも話になった。今年からは商工会青年部や認定農業者、PTAに話をして懇談会を行ってきた。意見を聞きながら、来年度からどうするか検討したいと思う。
- ・昨年度は40回行ったが、今年は34回にした。回数を減らす中で組み合わせる町会があったが、自分の住む地区の集会所でないものには来ないことがあった。もっと細かくして開催場所を増やし、2年に1回のペースで各地区を回るようにすれば、それぞれの地域でもっと意見を述べてもらうことができるのではないかと思っている。
- ・時間設定や年代別にターゲットを絞っていくことは考えていきたい。